

				授業コード		5085			
授業科目	成熟期看護学実習1 (実践と理論の統合1) Nursing Practice of Adults 1 (Integrating Theory into Practice 1)	責任教員	古川 直美 北村 直子	単位数	1	科目区分	必修	科目履修	不可
				時間数	45	開講セメスター	5・6		
目的と目標	これまでの学びを基に、看護過程と看護技術を実習2において活用できるよう準備し、自己の課題を明らかにする。 1. これまでの学びを基に、看護過程と看護技術を実習2で活用できるようにする。 2. 実習2の内容および方法を理解し、準備する。 3. 実習2における自己の課題を明らかにする。								
回数	学修課題	内容並びに方法						担当教員	
	成熟期看護学実習の概要の理解 成熟期看護学実習内容の理解と事前の準備	成熟期看護学実習に必要な看護活動を検討し、対象理解に必要な知識、看護活動に活用される各種ケア技術について、これまで学んだことを復習する。実習2を通して検証、あるいは確認したい学修課題について整理し、実習2への準備を整える。 <事前課題> ・各自、事前に指定した2事例(急性期治療を目的とする施設の事例、生活の場への移行および生活支援を目的とする施設の事例)及び労働の場での保健指導事例について、成熟期看護学領域の記録用紙を用いて、看護ケアが必要な状態の診断、計画立案を行い実習1に臨む。 <自己の課題> ・実習2における自己の課題を設定し、所定の記録用紙に記載し提出する。 <オリエンテーション> ・実習施設別オリエンテーションを行う。 (実習に必要なケア技術の振り返りも含む) <グループワーク> ・事前学習の2事例についてグループワークを行い、グループワークの結果を踏まえて、各自看護過程を加筆修正する。 ・保健指導事例についてグループワークを行い、実習2で行う保健指導に向け指導計画を作成する。 ・要綱に示された実習倫理に関する内容を理解し、倫理的な実習姿勢を確認する。 ・1～4セメスターで学んだ看護技術を確認する。						成熟期看護学領域全教員	
評価方法	実習態度10%、実習参加状況(グループワークの貢献度含む)・達成状況60%、事前課題30%								
参考資料	3年次領域別実習要綱、成熟期看護学概論・成熟期看護方法1～9までの授業資料および授業で紹介された文献等								
事前準備	事前に指定した2事例及び保健指導事例について成熟期看護学領域の記録用紙を用いて、看護ケアが必要な状態の診断、計画立案を行う。								
受講要件									